

# 楽しんで環境問題理解 ひたちなかでイベント

「ごみと宝物」を巡り、バーシル雅代さん(右から2人目)ら6人が意見を交わしたトークショー。ひたちなか市殿山町の自然体験、トークショー



地球環境について考え、行動する世界的な記念日「アースデー」(4月22日)にちなむイベントが18日、

ひたちなか市殿山町の姥の懐マリンプールで開かれ、有機農産物、廃油石けんなどの出店やサップ、磯遊び

の自然体験、トークショーなどが繰り広げられ、親子連れらが楽しみながら環境問題への理解を深めた。

イベントは、「アースデー ウバー! ひたちなか」と銘打ち、今年で3回目。同市出身でビーチクリーン活動グループを主宰するバーシル雅代さんが代表の実行委員会が主催した。

会場は、かつて海水が流れ込む天然のプールだった場所。敷地内に約50のブースが出店。有機栽培で育てた野菜の販売や、廃棄物を生かした小物作りのワークショップ、保護犬の譲渡会なども行われた。

トークショーでは、バーシルさんと市内の廃棄物処理会社、勝田環境の望月徹男社長、ビーチクリーン活

動経験のある小学生3人、地元の磯崎達也具議の6人が「ごみと宝物」をテーマに意見交換。シーグラス(漂着ガラス片)の例などを挙げながら「捨てるもの(を)ごみと見るか、宝物と見るかは、私たちの物の捉え方次第ではないか」という意見で一致した。

(佐川友二)